

岐阜県立大垣工業高等学校で防災講座を行いました

令和8年7月10日（金）、岐阜県立大垣工業高等学校で土木工学科の3年生16名に水害と地震の防災講座を行いました。

水害の講座では、災害対策基本法制定の契機となった伊勢湾台風を始め、今年で50年の節目を迎える9.12豪雨や令和6年台風10号などの過去の水害、新たな防災気象情報を学習しました。また、VRによる浸水疑似体験では、「浸水してくると想像以上に恐怖を感じた。そうならないように早期の行動を心がけたい」との感想がありました。体験の待ち時間には、ハザードマップで自宅の想定浸水深を確認したり、マイ・タイムライン（防災行動計画）の作成を行いました。

地震の講座では、令和6年能登半島地震や135年前の濃尾地震の特徴や被害について学習しました。また、模型・ペットボトルの実験を通して液状化現象や長周期地震動についても学習し、大垣市内は地下水が豊富なため、液状化による被害が発生する可能性が高いことをハザードマップで確認しました。

生徒からは「高齢者や子どもの避難の手助けをしたい」「自分が住んでいる地域の危険性を知るきっかけになり、安全な行動について考えることができました」などの感想がありました。

この学校では生徒が流域治水の模型を制作し、小学校で授業をする取り組みが行われています。

今回の講座が、生徒たちの防災意識向上に繋がり、「守られる人から守る人」になって頂けることを期待しています。

水 害



地 震

